



新年のご挨拶

システナ健康保険組合
理事長 国分 靖哲

新年あけましておめでとうございます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営に関しまして、多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、総務省が毎年まとめている「統計からみた我が国の高齢者」によると、平成28年9月15日現在の推計で、65歳以上の高齢者が日本の総人口に占める割合は、過去最高の27.3%となりました。超高齢社会とよばれる状況は確実に進みつつあります。

また、厚生労働省によると、平成27年度医療費（概算）では国民一人当たりの医療費は32.7万円（3.8%増）。75歳以上の後期高齢者は94.8万円で、75歳未満の22万円の4.3倍にのぼり、相変わらず高齢化が医療費増加の大きな要因になっています。

私たち健康保険組合は、多額の納付金を拠出して高齢者の医療制度を支えています。その過重な負担により、全国健康保険組合のおよそ5割が赤字に陥っている状況です。支出の増加に対応するため、ここ数年は、積立金の取り崩しや保険料率の引き上げなどで対応してまいりましたが、それもはや限界に近づいています。

平成29年度からは、健保組合が負担している後期高齢者支援金の算定方法が、報酬（給料）をもとにした「全面総報酬制」に移行されるため、多くの健保組合が負担増を強いられることが必至であり、健保組合を取り巻く財政状況はさらに厳しくなると予測されます。このような現役世代に過重な負担を強いる高齢者医療制度の負担構造については見直しが必要であり、他の健保組合や健康保険組合連合会とともに、適切な対応を求めてまいります。

平成29年度は、みなさまの医療費と健診のデータの分析をもとに保健事業を実施する「データヘルス計画」が3年目となり第1期最終年度を迎えるほか、メンバーについては医療保険に関する情報との連携の本格化等が予定されています。健保組合としては、誰もが安心して医療を受けられる国民皆保険制度の一翼を担うという責任のもと、財政の健全化に取り組むつつ、みなさまの健康で安心な暮らしを支えるため、事業実施にまい進していく所存です。みなさまにおかれましては、当健保組合の事業のご活用等を通じて健康な毎日をお過ごしください。医療費節減にご協力いただければ幸いです。

最後になりましたが、本年がみなさまにとって幸多き一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

